

静岡文化情報

(財)静岡市文化振興財団

まちがど

VOL. 36

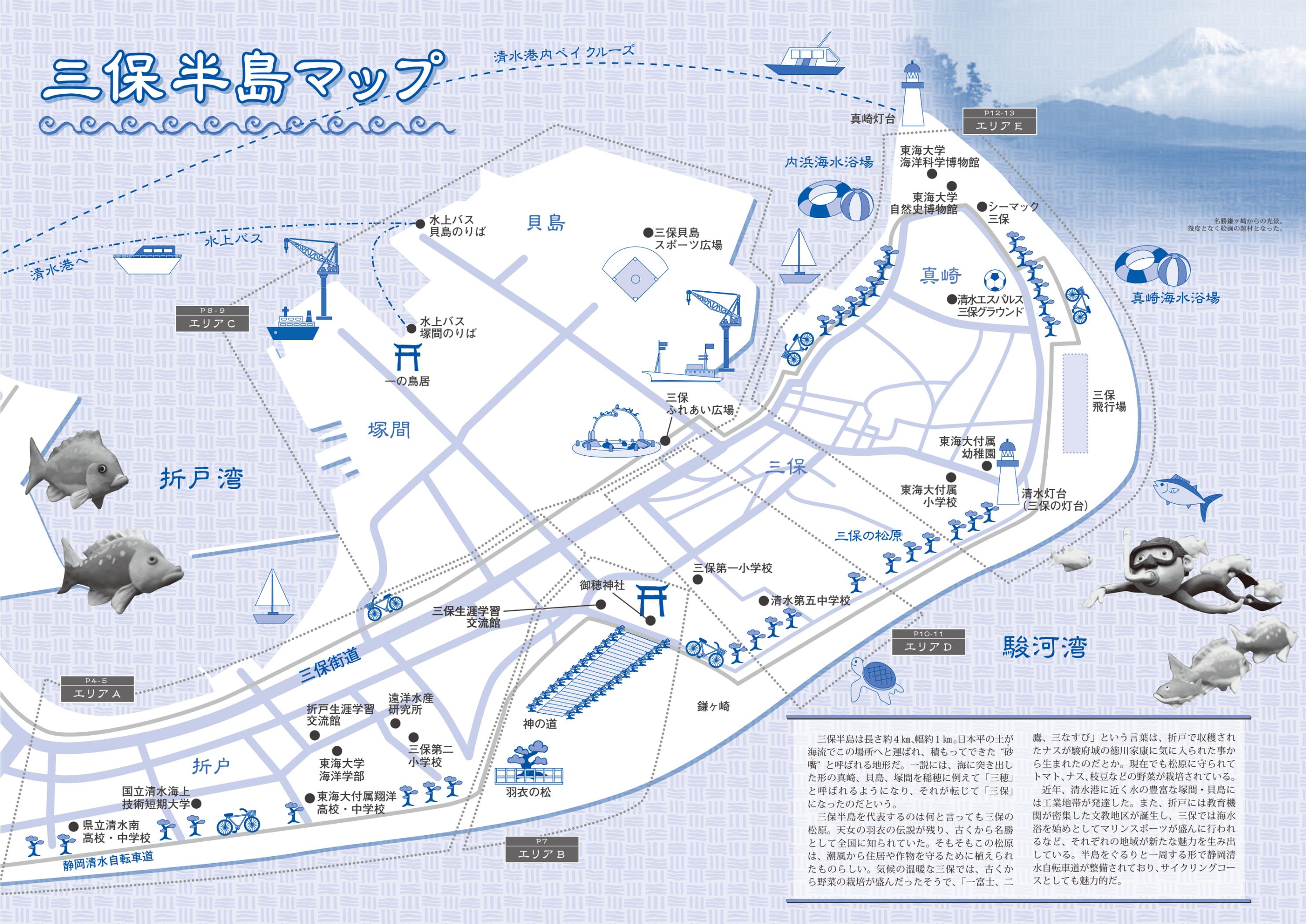
MACHI-KADO



三保半島

三保半島マップ

清水港内ベイクルーズ



名勝鎌ヶ崎からの光景。幾度となく絵画の題材となった。

三保半島は長さ約4km、幅約1km。日本平の土が海流でこの場所へと運ばれ、積もってきた「砂嘴」と呼ばれる地形だ。一説には、海に突き出した形の真崎、貝島、塚間を稲穂に例えて「三穂」と呼ばれるようになり、それが転じて「三保」になったのだという。

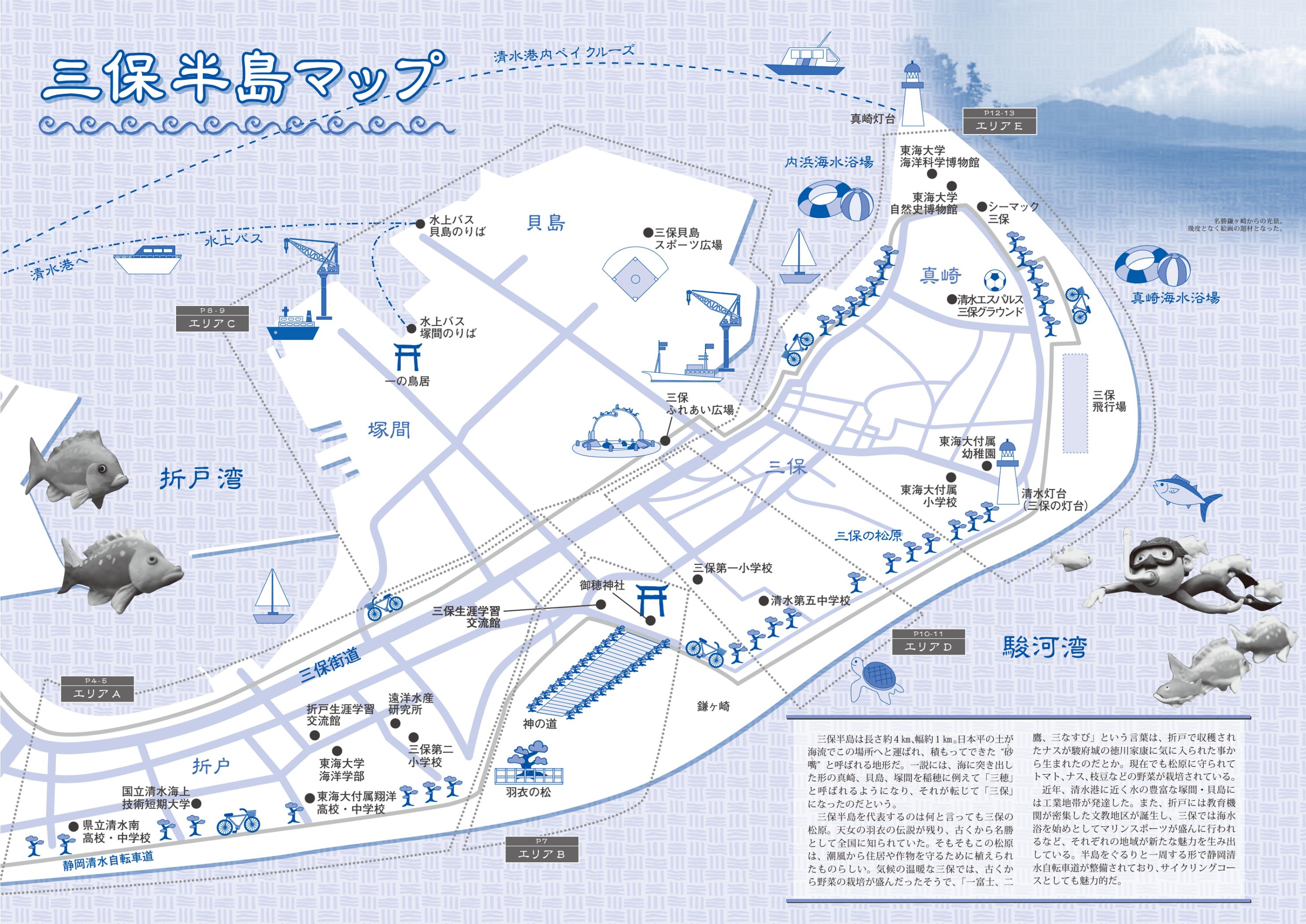
三保半島を代表するのは何と言っても三保の松原。天女の羽衣の伝説が残り、古くから名勝として全国に知られていた。そもそもこの松原は、潮風から住居や作物を守るために植えられたものらしい。気候の温暖な三保では、古くから野菜の栽培が盛んだったそうで、「一富士、二

鷹、三なすび」という言葉は、折戸で収穫されたナスが駿府城の徳川家康に気に入られた事から生まれたのだとか。現在でも松原に守られてトマト、ナス、枝豆などの野菜が栽培されている。

近年、清水港に近く水の豊富な塚間・貝島には工業地帯が発達した。また、折戸には教育機関が密集した文教地区が誕生し、三保では海水浴を始めとしてマリンスポーツが盛んに行われるなど、それぞれの地域が新たな魅力を生み出している。半島をぐるりと一周する形で静岡清水自転車道が整備されており、サイクリングコースとしても魅力的だ。

三保半島マップ

清水港内ベイクルーズ



名勝鎌ヶ崎からの光景。幾度となく絵画の題材となった。

三保半島は長さ約4km、幅約1km。日本平の土が海流でこの場所へと運ばれ、積もってきた「砂嘴」と呼ばれる地形だ。一説には、海に突き出した形の真崎、貝島、塚間を稲穂に例えて「三穂」と呼ばれるようになり、それが転じて「三保」になったのだという。

三保半島を代表するのは何と言っても三保の松原。天女の羽衣の伝説が残り、古くから名勝として全国に知られていた。そもそもこの松原は、潮風から住居や作物を守るために植えられたものらしい。気候の温暖な三保では、古くから野菜の栽培が盛んだったそうで、「一富士、二

鷹、三なすび」という言葉は、折戸で収穫されたナスが駿府城の徳川家康に気に入られた事から生まれたのだとか。現在でも松原に守られてトマト、ナス、枝豆などの野菜が栽培されている。

近年、清水港に近く水の豊富な塚間・貝島には工業地帯が発達した。また、折戸には教育機関が密集した文教地区が誕生し、三保では海水浴を始めとしてマリンスポーツが盛んに行われるなど、それぞれの地域が新たな魅力を生み出している。半島をぐるりと一周する形で静岡清水自転車道が整備されており、サイクリングコースとしても魅力的だ。

エリアA

～areaA～



折戸生涯学習交流館

教育機関の密集する折戸の文教地区で、三保街道側から見て一番入口に近いのが折戸生涯学習交流館だ。ここでは一年を通して様々な講座が行われており、今年は地元の特産品を活かした「折戸ナス」の料理教室なども実施される。

他の教育機関との関わりも見逃せない。毎年11月の「折戸まつり」には小中学生や高校生が参加して演奏やチアリーダーを披露。大学生が地域のお祭りで御輿をかついだり、地元の中学生在が地域の人たちと協力して町の花壇を作ったりと、地域を盛り上げる活動も交流館を起点に行われる。折戸生涯学習交流館が、教育機関と地域とを結び付けているのだ。



特集

学びのスポット「折戸」

東海大学海洋学部

東海大学海洋学部は、海を総合的に学ぶ日本で唯一のユニークな学部だ。中でも最大の特徴は、海洋調査研修船「望星丸」の存在だ。すべての学生は、在学中に必ず望星丸での海洋実習を経験する。

船での生活はチームワークが大事で、ひとりの行動が皆に影響するため規律にも厳しい面がある。また、観測したデータは将来に渡り研究資料として蓄積されるため、実習も気が抜けない。そんな緊張感の中で自然の美さと偉大さを全身で感じて人間的にも一回り成長できる、望星丸は「海の上のキャンパス」なのだ。

全国に9のキャンパスを持つ東海大学は、三保が発祥の地だ。創立者である松前重義の「若き日に汝の希望を星につなげ」の言葉は、今も確かに海洋学部を受け継がれている。



海洋調査研修船「望星丸」

◆ にんじんなすとまと -オムライス専門店-

店名を聞くと何のお店か気にかかる「にんじんなすとまと」は、オムライスの専門店だ。看板メニューの「ふわふわオムライス」は、ソースと具を好きな組み合わせで注文でき、そのバリエーションは50種類近くにもなる。玉子は名前のおりにふわふわの食感。玉子の上には店名にもなっているにんじん、なす、トマトがちょこんと並んで乗っていて、見た目にも味にも華を添えている。



店長の望月さんは「ちょっと待ってでも良いものを食べてもらいたい」と語る。ひとつひとつのオムライスを丁寧に作るため少し時間はかかるが、その分できあがったオムライスの味は格別だ。

◆ おばあちゃんの店 -お食事処-

東海大学の間近にある「おばあちゃんの店」は、東海大学建学の頃から続いているお食事処。食欲旺盛な学生さんも満足できる、ボリューム満点のメニューが魅力だ。学生さんにとっては気楽に集まれるお店で、卒業後何十年もしてから卒業生がこの店に集まり、変わらない味に舌鼓を打つこともあるという。



ボリューム満点のロース丼

現在の店主の綾部さんは三代目に当たる。店名は初代の店主にちなんだもので、綾部さんは「おばあちゃん」ではないのだが、お客さんを迎える温かい空気は今も昔も変わらない。

◆ MASSIMO -イタリア料理-

三保街道から羽衣の松へと向かう交差点に、イタリア国旗が翻る。MASSIMOは三保出身の宮城島さんが夫婦で営むイタリア料理のお店だ。以前はフランス料理店を開いていた事もある宮城島さん。フランス料理は格式ばった雰囲気になりがちだが、もっと気楽に美味しい料理を楽しんでほしいとの思いから、形式にこだわらないイタリア料理のお店を開いたのだという。店内は硬すぎず、かと言ってだけすぎない上品な内装で壁にかかった絵画の中には、和田英作の弟、和田秀穂の肉筆画もある。フランス料理の手の込んだ作りと、イタリア料理の気軽さを共に味わえる贅沢なお店だ。



Column ~コラム~

科学戦隊サイエンス

白衣を着た学生の説明に、子どもたちが身を乗り出す。東海大学海洋学部中山ゼミでは「科学戦隊サイエンス」と銘打って市内各地を訪れ、子ども向けの科学実験教室を開いている。年間で20回以上の活動を行っており、東京の国立科学博物館で開催したことも。

「子どもたちが目をキラキラさせて見てくれると、がんばってよかったと思えます」と、サイエンスのメンバーは活き活きと語る。ゼミで作ったお揃いのTシャツには、「夢と感動は成長の源」の文字。サイエンスの活動を通して、子どもたちと大学生の両方がこの言葉のとおり成長している。



遠洋水産研究所

マグロの漁獲量制限やクジラの調査捕鯨についてなど、海の水産資源についての国際会議がしばしばニュースになる。では、それらの会議で、日本の水産業のために科学的見地から協議に加わっている機関が折戸にあるのはご存じだろうか。



遠洋水産研究所は、どの国の領土でもない「公海」で行われる漁業や、その対象となるマグロなどの重要な魚を、国際的に管理していくための調査を行っている。水産資源を効率よく利用し、将来にわたって安定的に漁業を営むため、魚の生態や生息場所、適切な漁法など……研究の内容は幅広い。

展示室も設置されており、見学も可能。研究の紹介のほか、海の生物の骨格や剥製なども充実しており、何気なく食卓に上る魚の背後にある壮大な研究活動を垣間見ることができる。



Column ~コラム~

和田英作邸

和田英作は明治から昭和にかけて活躍した洋画家。日本近代洋画界の指導的な役割を果たし、東京美術学校の校長も務めた人物だ。富士山をモチーフに描くことを好み、昭和26年に富士山がよく見える三保へ移り住んだ。そして昭和34年に85歳で世界するまでこの場所で多くの作品を制作したのである。当時のアトリエは、故郷である鹿児島県垂水市に移築されたが、住居は今でも当時の姿を留めている。ただし現在も個人宅として使用されているので、その姿から往時を偲ぶに留めておきたい。



エリアA

特集「学びのスポット」折戸

特集「三保の松原」

エリアB

エリアC

エリアD

特集「学びのスポット」三保

エリアE

Information

エリアA

特集「学びのスポット」折戸

特集「三保の松原」

エリアB

エリアC

エリアD

特集「学びのスポット」三保

エリアE

Information

エリアB

～areaB～

エリアA

特集「学びのスポット」折戸

特集「三保の松原」

エリアB

エリアC

エリアD

特集「学びのスポット」三保

エリアE

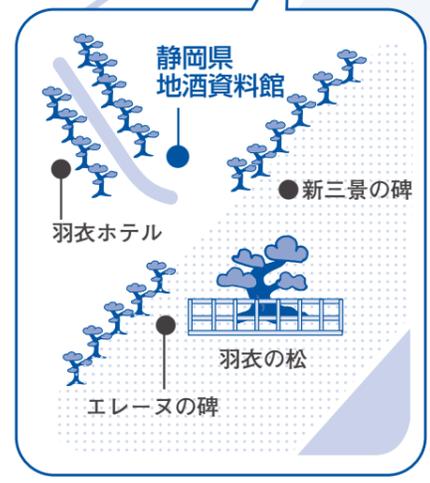
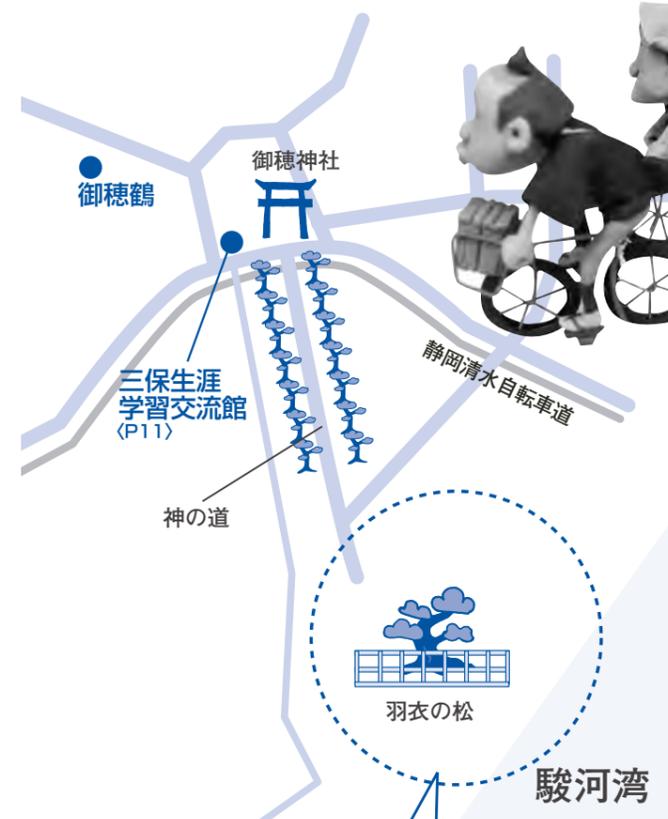
Information



静岡県地酒資料館

平成20年、洞爺湖サミットの夕食会で乾杯に使うお酒の選考が行われた。全国から集められた名酒の中、選ばれたのは静岡県の地酒だった。美味しい水に恵まれた静岡県は、美味しいお酒を造るのにも適した土地なのだ。

そんな静岡県の地酒を一度に紹介しているのが、土産物屋「一ふじ」の一角にある「静岡県地酒資料館」。県内各地にある蔵元23軒のお酒が紹介されていて、一部はその場で購入もできる。日本酒の種類や特徴もわかりやすく解説されているので、日本酒に詳しくない人でも安心だ。店長の芹澤さん自らもお酒好きで、お店に出すお酒はすべて味を見ているのだとか。好みを伝えれば、合ったお酒を紹介してもらうこともできる。酒のアテになる静岡のB級グルメも取りそろえられているので、静岡のお酒を満喫するには最適だ。



御穂鶴 -居酒屋-

天井が高く開放的な店内で、美味しい地酒と新鮮な地魚が楽しめる。風情ある建物の居酒屋「御穂鶴」は、大正から昭和にかけては造り酒屋であったそうだ。今は客席が並ぶその場所にかつては酒樽が並び、杜氏が酒造りをしていたのである。造っていたお酒は、その名も「御穂鶴」。今も蔵元を変えて造り続けられている「御穂鶴」は、口当たりがやさしく、お酒が苦手な人でもすっきり飲める。この店以外ではなかなか味わえない逸品だ。

「開放的な空間で、ゆっくりお話しして欲しい」と語るのは、家族で御穂鶴を経営する宮城島さん。歴史ある建物と温かい人に迎えられる、のんびりと時間を過ごしてみたいかがだろうか。



特集 三保の松原

むかしむかし、三保の松原で釣りをしていた漁師伯良が、松の枝に見た事もない美しい衣がかかっているのを見つけた。伯良が帰ろうとすると天女が現れ、それは自分の羽衣で、それがないと天に帰れないので返してほしいという。伯良は始めは渋ったが、天女の舞を見せてもらう代わりに羽衣を返すことにした。天女は羽衣をまとい、舞い踊りながら天へと昇り、富士山の方へと消えていった…

前に広がる松原、そしてその先に見える富士山はまさに絶景。絵画、謡曲、能など、三保を題材にした作品は枚挙にいとまがない。大正4年には新日本三景のひとつに選ばれ、大正11年には国の名勝に指定された。現在でも多くの人がその景色を見ようと訪れており、全国的にその美しさを認められた名勝なのである。

羽衣まつり

毎年10月に開催される羽衣まつりでは、羽衣の松の前に特設舞台が作られ、羽衣の伝説を題材にした能「羽衣」が上演される。日が沈んだ後にかがり火の中で演じられる「薪能」で、伝説の舞台となったまさにその場所で演じられる能に、ゆらめく炎が神秘的な味わいを加える。



薪能の様子

この薪能は、若くして命を落としたフランス人舞踏家エレヌ・ジュグラリスに捧げられているという。太平洋戦争後間もない昭和20年代、美を追求する内に日本の能に魅せられたエレヌは、フランスで能「羽衣」を上演しようと尽力した。公演は大成功をおさめたが、エレヌは初演のわずか3ヶ月後に倒れ、帰らぬ人になってしまう。彼女は三保に憧れを抱きながら、ついに三保の地を踏む事はなかったが、その功績は三保の人々の心を打ち、昭和27年には羽衣の松の傍らに記念碑が建立された。

また、今年は薪能終了後に羽衣の松の世代交代イベントが行われる。長年愛されてきた現在の羽衣の松も今や老齢となったため、新しく若い次代の松へとその役を継承するのだ。羽衣の松の世代交代は数百年ぶりと言われ、おそらくは次の継承も数百年後。歴史的な瞬間をぜひ目撃してほしい。

御穂神社・神の道



三保津彦命と三保津姫命という夫婦の神を祀る御穂神社は、昔から今川、武田、徳川など名だたる武家の信仰を集め、現在も近隣の人々から「三保の明神さん」と呼ばれ親しまれている。

また、御穂神社と羽衣の松を結ぶ「神の道」は、樹齢200年とも300年とも言われる松が建ち並ぶ美しい並木道だ。毎年2月に行われる神事では、実際にこの道を通して神を迎えるのだという。



Column ~コラム~ 三保の松原・美の世界

名勝として知られた三保の松原を題材に描いた絵画は数多い。それらを一冊に詰め込んだ冊子が「三保の松原・美の世界」だ。発行したのはNPO法人三保の松原・羽衣村。三保の松原をもっと楽しむために、と結成された羽衣村は、地域のウォーキング、講演会、盆踊り、コンサート、沖縄との交流会、松の保護など、幅広い活動を行ってきた。当初は4人

だった「村民」も、今では50人を超える。「遠くの人には三保の景色を見ると感激してくれるけれど、地元の人にも三保の素晴らしさを再認識してほしい」と語るのは村民の遠藤さん。確かに「三保の松原・美の世界」に掲載された名画の数々は、三保の景色の美しさを再認識するのに十分な魅力を持っている。この冊子は市内の図書館などで見る事ができる。



エリアA

特集「学びのスポット」折戸

特集「三保の松原」

エリアB

エリアC

エリアD

特集「学びのスポット」三保

エリアE

Information

エリアC

～areaC～



カナサシ重工

水上バス
塚間のりば

一の鳥居・
常夜灯

日本軽金属

三保貝島
スポーツ広場

三保
ふれあい広場

三保造船所

静岡清水自転車道

三保街道



カナサシ重工の会議室には、
大きな操舵輪が飾られている



◆カナサシ重工

全長120メートル、重量4,000トン以上。こんな途方もない大きさの貨物船が、カナサシ重工では建造されている。驚くべきは、これだけの規模の船がほとんど手作業で造られていることだ。材料となる鉄板の切り出しや、最終的なブロックごとの組み立ては機械で行われるのだが、その間のほとんどの工程が人間の手で行われている。400人以上の人の手を経て、建造に要する期間はおおよそ1年間。仕事に携わる人も、「これだけのものを人の手で作り上げるのは、ロマンですね」と誇らしげだ。そうして完成した船は、清水から世界中の海へと船出していく。



Column ～コラム～

三保ふれあい広場 (旧三保駅)



三保ふれあい広場は、園内を川が流れる涼しげな公園だ。ここはかつて旧国鉄清水港線の終点、三保駅があった場所。当時使用されていたホームはそのまま残されていて、ホーム上のベンチは一休みにちょうどよい木陰となっている。ホームの前には実際に使用されていた貨物車両が展示されていて、往時の盛況を偲ぶ事ができる。また、かつて列車が走っていたルートは歩行者道とサイクリングコースとなっており、これをたどるのもまた三保半島を楽しめる道のひとつだ。

Column ～コラム～

一の鳥居・常夜灯

かつて御穂神社や三保の松原を訪れる人々は、興津から出る渡し船を使っていた。その時に三保の入口だったのが、ここ塚間の船着き場。船を降りるとまず目に入るのが御穂神社の「一の鳥居」だ。塚間に着いた人々は、この鳥居をくぐり御穂神社、そして三保の松原へ向かったのだという。古くは1650年の古地図に描かれているこの鳥居は、何度も再建を経て今も塚間を訪れる人を出迎えている。現在の鳥居は2004年に建てられたものだが、1865年に建てられた際の資材をすべて再利用しているというから、地元の人々のこの鳥居への愛着が窺える。



◆日本軽金属 清水工場

日本で初めてアルミニウム地金が生産されたのは昭和9年、用途は軍需品・家庭用品だった。日本軽金属株式会社の清水工場が操業を開始したのはその7年後の昭和16年。当初は原料のボーキサイトからアルミニウムの材料となるアルミナを生産していたそう。製品が軍需品の材料となるため、戦時中には工場が攻撃の対象となったこともあり、敷地内には艦砲射撃を受けた痕も残っているという。



現在は化学工業製品として水酸化アルミニウム、アルミナが作られている。名前にはあまり馴染みがないかもしれないが、ガラスやセラミック、電子部品のほか、家庭用洗剤にも入っている凝集材や、研磨材、耐火材の材料となるなど、案外身近な素材だ。アルミナ化成品の分野で国内最高の水準を誇る日本軽金属清水工場のテクノロジーは、実は日常生活のいたるところで利用されているのだ。

◆三保造船所



この土地で漁船を作り続けて90年以上。三保造船所は旋網漁船、鯉一本釣漁船といった漁船の他、調査船、取締船、実習船などの分野でも国内シェア一位を誇っている。一口に漁船と言っても、ここ三保造船所で造られる漁船は、全長40～80メートルもある大型の遠洋漁船。建造中の一区画だけでも見上げるほどの大きさだ。

三保造船所では漁船のことを日本の海の資源を活かす大切な道具だと考えているという。「日本が自力で魚を獲る産業を絶やさないために」という合言葉のもと、日々最先端の漁船を作り続けている。日々食卓に上る魚も、もしかしたら三保造船所製の船で獲られたものかもしれない。

◆水上バス

かつて塚間の船着き場(コラム参照)があった場所からは今も水上バスが船出し、地域の人々の日常の足として親しまれている。塚間を出発した水上バスは貝島を経由して対岸の日の出へ、さらに海釣り公園を経て江尻へと向かう。潮風を受けながらの船旅はとても爽快。天気が良ければ見る事ができる海の上からの富士山は、他ではお目にかかれない絶景だ。塚間から日の出までの区間は自転車を載せることもできるので、サイクリングで三保を訪れる際にもおすすめです。



◆三保貝島スポーツ広場

工場が建ち並ぶ中、重厚なゲートをくぐって進んでいくと、急にぱっと視界が開ける。野球場2面とソフトボール場2面、それにアップを行う広場を備える三保貝島スポーツ広場だ。グラウンドゴルフの会場として使われることもあり、週末には市内から集まったスポーツマンたちでにぎわう。



スポーツ設備はもちろん、この広場からの眺望も魅力的だ。グラウンドの北側は海に向かって開けており、右手には真崎側の松原を、正面には遠く興津の山々を望む。広々としたグラウンドと相まって、とても見晴らしのよい場所となっている。

三保貝島スポーツ広場は静岡市に申し込めば使用することができる。時には開放的な景色の中でスポーツを楽しむのもよいのではないだろうか。

エリアA

特集「学びの
スポット「折戸」

特集「三保の松原

エリアB

エリアC

エリアD

特集「学びの
スポット「三保」

エリアE

Information

エリアA

特集「学びの
スポット「折戸」

特集「三保の松原

エリアB

エリアC

エリアD

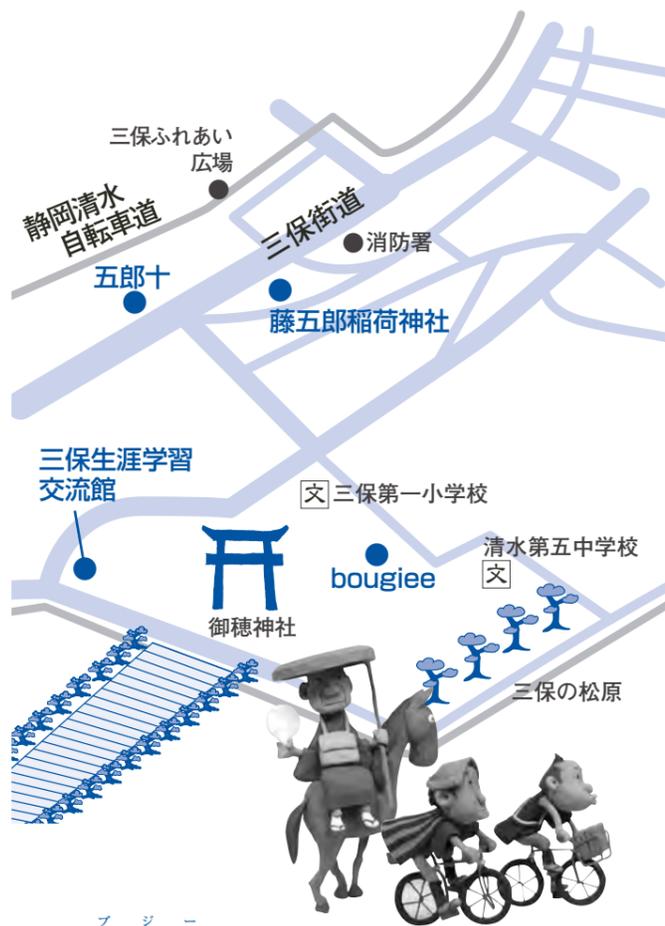
特集「学びの
スポット「三保」

エリアE

Information

エリアD

～areaD～



◆ bougiee -ケーキ&スイーツ-

記念日にはケーキにロウソクを立てて、家族で味わってほしい。フランス語でロウソクを意味する「bougiee」には店主の鈴木さんのそんな願いが込められている。クセの強い素材はおさえめに、誰もが美味しく食べられるケーキを作っているのもその願いの表れだ。そんなbougieeのケーキは世代を問わず評判で、りんごのパイやロールケーキは午前中で売り切れてしまうこともあるという人気ぶり。ケーキの他にも、動物などをかたどったカラフルな「アイシングクッキー」も人気。名前を入れて贈り物にもできる記念日にふさわしい一品だ。



カラフルで可愛いアイシングクッキー

Column ～コラム～

藤五郎稲荷神社

三保街道にほど近い住宅街の中に、小さな神社が建っている。この神社で祀られているのは、「藤五郎さん」。安政の大地震が起こったころ、収穫が減って苦しんでいた三保の農家のために、農家の代表として尽力した人物だという。藤五郎さんは時の代官の怒りに触れて殺されてしまったというが、現在三保で美味しい野菜が作られているのも、藤五郎さんあってこそなのかもしれない。毎年3月15日のお祭りには、藤五郎さんに感謝して、お参りする人たちに赤飯のおにぎりが振る舞われている。



清水の郷土誌を研究する「かたりベクラブ」の紙芝居より代官に訴え出る三保の農民たち

◆ 五郎十 -とんかつ-

エビフライとヒレカツのミックス定食。右下のマッチ箱と比べると巨大さがわかる。



切り分けられたとんかつの厚みは3cmはあるだろうか。とんかつの五郎十のメニューはとにかくどれも巨大の一言。「どこかに食事に行こうと思った時に、パッと頭に浮かぶ店にしたい」と語るのはご主人の窪田さん。確かに、巨大な料理は強烈なインパクトだ。もちろん大きいからと言って味に手抜きはなく、食べ切れそうにない量も、気がつけば食べきってしまう。土日になると、評判を聞きつけて県外から訪れるお客さんもいるという五郎十。窪田さんの狙いどおり、一度行くと忘れられないお店である。

三保生涯学習交流館

御穂神社のすぐ隣、波頭をイメージした屋根が特徴的な三保生涯学習交流館。健康教室やコンサートなどバラエティ豊かな講座を開催しているが、中でも活発なのが子どもを育てる活動だ。充実した活動が実現できるのは、交流館だけでなく地域の団体、企業が手を取り合って、地域みんなで子どもを見守り育てる環境が作られているから。普段からちょっとした困りごとでも地域の人が相談に訪れるという三保生涯学習交流館は、生涯学習に留まらない地域の拠点となっている。

東海大学自然史博物館



今にも動き出しそうなトリケラトプスの骨格レプリカ

1981年に恐竜の化石標本を展示する「恐竜館」として開館し、1993年には地球や生物の生い立ちを展示する「地球館」と合併。現在では、地球誕生から現代に至るまでの生物の進化を学ぶことができる博物館となっている。中でも一番人気があるのが「恐竜の世界」。薄暗い照明が独特な雰囲気を出しており、全長26mものディプロドクス、ナイフのような鋭い牙のタルボザウルス、頭の角が特徴的なトリケラトプスなどの骨格レプリカがずらりと並ぶ。今にも襲い掛かってきそうなその大迫力、つい足が竦んでしまいそうになるほどだ。また、恐竜の大迫力をさらに楽しんでもらうために、夜の博物館を探検する「恐竜ナイトツアー」を実施。恐竜が動くイメージを骨格の影絵によって作り出す演出に、参加者は歓声をあげて楽しんでいるそう。こうしたイベントには「自然史が好きになってほしい」というスタッフの思いも込められている。大迫力の恐竜たちが自然史を学ぶきっかけを与えてくれそう。



東海大学海洋科学博物館

海の生き物、海の科学を知ってもらうために「海の博物館」として1970年にオープン。展示は「水族館部門」「科学博物館部門」「機械水族館部門」とテーマごとに分けられており、わかりやすいと好評だ。その中でも一番人気があるのが、水族館部門の「クマノミ水族館」。トンネル型やドーナツ型などさまざまな形の水槽が並び、あらゆる角度からクマノミを観察できるのが魅力で、時を忘れてクマノミに見入っている方も多いのだそう。また、他の水族館ではなかなか体験できないクマノミへの餌やりや、ヒトデやナマコなどの感触をじかに触れて確かめられる「タッチングプール」は、普段ふれあう機会の少ない海の生き物とのふれあいが楽しめることとあって、夏休みには多くの子どもたちが詰めかけるそう。 「子どもも大人も楽しみながら学んでいただきたいですね」と、学芸員の手塚さん。ここには、海の生き物を学ぶための工夫が盛りだくさんだ。



シーマック三保

子どもたちに、海に囲まれた土地ならではの体験をさせてくれるのが、清水海洋活動センター「シーマック三保」。ヨットやカヌーを使い、初歩から指導を受けて自力で海に漕ぎ出すのは刺激的な体験だ。ちょっと変わっているのがダンボールカヌー。大きなダンボール紙を子どもたち自身で切り貼りして、海水に耐えられるようにビニールで覆う。出来上がったカヌーは、大人が2人乗ることができるすぐれものだ。普段は小中学校などの団体利用が中心だが、シーマック三保主催の体験教室には個人でも参加することができる。



エリアE

～areaE～



◆ 清水エスパルス三保グラウンド



清水エスパルスのホームゲームが近づくと、三保街道には無数のフラッグが翻る



ファンと兵働選手との交流の様子

清水エスパルスの選手たちが日々練習に取り組んでいるのが、この清水エスパルス三保グラウンド。練習は基本的に公開されており、グラウンド近くに設置された見学者用スタンドでは迫力あるプレーを見学することができる。選手間で交わされるコーチングの声、監督の指示、迫力のボディコンタクト、激しい息づかい、ボールを蹴る音などがはっきりと伝わってきて、スタジアムとはひと味違った臨場感を味わえるのが魅力だ。また、練習日にはグラウンドの外にあ

る交流ゾーンで選手とふれ合うチャンスも。サインや写真撮影、握手など、試合日にはできないようなことにも練習日なら気軽に応じてくれるはず。このあたりは、地元密着のチームならではの粋な計らいだ。三保グラウンドに来ればスタジアムではなかなか見られない選手の表情を見ることができ、選手との距離がぐっと近くなること間違いなし。ただし、練習は非公開となることもあるそうなので、見学に行く前には(株)エスパルスへのお問い合わせをお忘れなく。

◆ 三保のマリンスポーツ

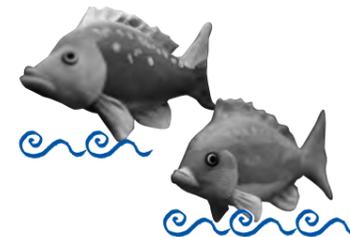
内浜、真崎とふたつの海水浴場を持つ三保は、夏になると海水浴客でにぎわう。それだけではなくウインドサーフィン、ヨット、カヌー、ダイビング、ウェイクボード…と、三保で行われているマリンスポーツは数多い。港湾でありながらビーチもある三保は、マリンスポーツに適した土地柄。さらに、冬でも水温が高いため一年を通してスポーツを楽しむことができ、波が静かで安全な内海と波が激しく挑みがいのある外海を併せ持つなど、好条件が揃っている。

「世界でも1、2に入るいい海だと思います」と語るのは、プロウインドサーファーで海外遠征の経験も多い合志さん。三保の海の素晴らしさを多くの人に知ってもらいたいと、ウインドサーフィン教室を開催している。修学旅行で小学生が教室を訪れることもあり、今年は1,000人近くの小学生がウインドサーフィンを体験していく予定だという。

合志さんは、折戸でサーフショップとカフェが併設されたユニークなお店「Gosea's surf & café」を営んでいる。ここにはサーフィンググッズを求める人、美味しいコーヒーと人気のベーグルを求める人など、老若男女様々な人が集まる。訪れる人の中には新たに海へ興味を持つ人も現れ、マリンスポーツの輪は今も拡大中だ。

◆ 清水灯台(三保の灯台)

三保にはいくつもの灯台があるが、一般に「三保の灯台」といったらここ、清水灯台のことだ。明治45年竣工、日本で初めて鉄筋コンクリートで造られた歴史的価値の高い灯台で、白い八角柱のスマートな外観が美しい。注目してみたいのは頂上に立つ風向計。地上19メートルの高さがあるのでぱっと見ただけではわからないが、風見鶏の代わりに天女のデザインになっている。灯台として十分に機能するだけではよしとせず、風光明媚な三保に建てても景観を崩さないよう工夫が凝らされているのだ。



Column ～コラム～

三保と飛行機

三保の松原の間から、ときおり小型の飛行機が飛び立つのをご存じだろうか。今でこそ馴染みは薄いですが、実は三保と飛行機の間には浅からぬ縁があるのだ。

静岡空港開港からさかのぼること78年、昭和6年に東京都と三保を結ぶ定期飛行が開始された。初飛行時の乗客は、小泉純一郎元首相の祖父にあたる小泉又次郎通信大臣だったそうだ。昭和17年には航空技術専門学校が開校される。これは現在の東海大学の前身であり、現在も宇宙航空学部へと形を変えて引き継がれている。昭和19年には清水灯台西側に清水海軍航空隊が開隊。飛行機は配備されていなかったが、飛行に関する教育が行われていたという。

あるものはその役目を終え、あるものは他所へ移転したが、現在も三保半島には三保飛行場が残っており、赤十字飛行隊の訓練飛行場としてその役目を果たし続けている。



現在の三保飛行場



◆ トマト牧場

トマト栽培のビニールハウスが立ち並ぶ中に、ちらりとサラブレッドの姿が覗く。「トマト牧場」は1年を通してトマトを栽培し、直売も行う農場だ。どうしてトマト農場に馬がいるのか尋ねてみると、乗馬で国体にも出場経験のあるご主人の石野さんが、馬主になりたいという長年の夢を自らの農場で叶えたのだとのこと。単に趣味だけではなく、馬から取れる堆肥はトマトと相性がよく、美味しいトマトが育つのだという。

サラブレッドの他にポニーや大型犬、さらには猫も4匹いるトマト牧場はとってもにぎやかだ。「来るものは拒まないよ」と笑うご主人の石野さん。気楽に立ち寄れる不思議な農場だ。



2010

JSTEP

s.colina

真夏の夜を楽しむ

夏のParty Plan

7/1 ~ 8/31 17:00 ~ 21:00 (最終開始時間19:00)

Food ¥3,000

- ・ヤリイカのライスコロッケ
- ・ドライトマトとツナのブルスケッタ
- ・シーフードサラダ
- ・キーマカレー ナン添え
- ・枝豆
- ・手羽先の唐揚げ&塩焼き
- ・金目鯛のエスカベッシュ
- ・ポークカツ ミラノ風
- ・バナラアイス
- ・バルサミコソースがけ

Free Drink ¥2,000 (2時間)

- ・生ビール
- ・ビンビール
- ・ノンアルコールビール
- ・麦焼酎
- ・芋焼酎
- ・日本酒
- ・ワイン
- ・梅酒
- ・カクテル各種
- ・ソフトドリンクバー

お子様メニューもあります。

- ・20名以上のご利用で → ¥4,500
- ・女性みのグループは → ¥4,000



TEL: 054-371-9034

〒424-0831 静岡市清水区山切1487-1
清水ナショナルトレーニングセンター2F
レストラン S.colina(エスコリーナ)



2010 SUMMER&AUTUMN イベントご案内

※詳細につきましては各施設ホームページ又は直接施設へお問い合わせ下さい。



TERRSA
静岡市東部勤労者福祉センター
8月10日【火】
夏休み子ども海洋環境イベント
『海を学ぼう!!』
<http://terra.net> (PC&MOBILE)



JSTEP
9月20日【月・祝】
『親子 de うんどう
2010 in Autumn』
～太陽の下、芝生の上で元気いっぱい身体を動かしましょう～
<http://www.j-step.or.jp> (PC&MOBILE)



Out-Sourcing! Stadium
清水日本平運動公園庭球場
8月21日【土】～23日【月】
夏休み『キッズテニス教室』
<http://nihondaira-stadium.com>
(PC&MOBILE)



YURARA
9月20日【月・祝】
『ゆらら』で湯つくり
感謝 DAY 敬老の日 編
<http://yurarashizuoka.com> (PC)

タッチパネル情報端末 SHIZUOKA NAVI

SHIZUOKA NAVIは常時更新です。変更する可能性があります。

8月START

しずおかの新しい情報発信端末！ SHIZUOKA NAVI START!

しずおかの旬の話題やお得な情報・特典
を簡単操作のタッチパネルでGET!
市内6箇所8面に設置！来て見て触って
まちなか新基準！SHIZUOKA NAVI！



静岡 ホビーフェア

デジタルスタンプラリー開催!

ホビーフェア開催会場の東静岡を拠点にまちなかに設置された SHIZUOKA NAVI を回り携帯電話でスタンプをGET! 素敵な景品をもらっちゃおう!!! 詳しくはホビーフェア内 SHIZUOKA NAVI プースまで!!!
※SHIZUOKA NAVI 及びスタンプラリーに関するお問い合わせは(財)静岡市振興公社 電話 054-255-8919 まで

7月24日(土)～3月27日(日)

とびとびからの元気をサポート! (財)静岡市振興公社

〒420-0031 静岡市葵区呉服町2丁目1番地の1
TEL: 054-255-8919 FAX: 054-255-9503
URL: <http://s-ppc.com> (パソコン・携帯どちらからモアアクセス可)

未来が変わる。
日本が変わる。

25

